

令和4年度 学校経営方針

＜基本方針＞

教育は、子供一人一人の幸福を実現するとともに「未来を創る」営みである。
そのために、生徒、保護者、地域、教職員が力を合わせて、次のような学校を創造したい。

温かい人間関係を基盤として、

- 生徒と教師が共に学び合い育ち合う学校
(リスペクト、互いへの感謝、同僚性、全人格的成長)
- いじめ・暴力・からかいのない安心して学べる学校
(人権尊重、生徒自治、学びの保障)
- 「人を信じ未来を信じて生きる力」を育む学校
(心の居場所、絆づくり、人生の基盤)

そのために、

＜共有したい認識＞

- ・生徒指導の基盤は教育相談。子供の心の声に耳を澄ませて気持ちを聴き取る。
(子供の話を聴かない大人の言葉は、子供の心に届かない)
- ・子供は発達途上の存在。自主性を尊重しつつも大事なことはきちんと教える。
(この認識を保護者・地域と共有し、連携・協働して子供を育てる)
- ・保護者・学校・地域、三者の信頼関係の上に学校教育は成立する。
(「子供のうしろに保護者あり」を忘れない。一つ一つ真心込めて丁寧に)

＜参考＞ 【内外教育 巻頭言より抜粋】 立志社 主筆 岩井忠彦

2018.4.3号

ビジネスなどの世界と違って、教育の時の流れは長く緩やかだ。小学生が社会に出るのさえ数年から十数年後で、それからがさらに長い。その時間に向き合い、遠い将来のための確かな基礎を育む。迂遠なようだが、それが千古不易の教育の道だろう。

変化の時代だからこそ、過去と現在を確実に踏まえ、重厚に着実に、後世の評価に耐える教育を構築しなければならないと思う。

2018.10.6号

児童生徒の今後の人生は半世紀を超える。その間、新たな「〇〇社会」に何度も遭遇するはずだ。その都度自分で判断し、努力して課題を克服するほかはない。

予期せぬ社会の変化に直面しても狼狽せず、柔軟に、正しく対処するための要件は何か。それは確かな知識であり豊かな教養であろう。学校教育の使命はその基礎づくりにある。さまざまな知識を体系的に、わかりやすく教えて定着させ、また、読書指導などを通じて個人の思索や生き方を追体験させる場なのだ。社会での仕事に直接は役立たず、学習した個別の内容を思い出すことはなくても、それが長い人生の基盤になるのだ。話題性を求めず奇をてらわず、児童生徒の遠い明日を見つめて、地道に教育実践を続ける。それが教師の本分ではないだろうか。

雄山中学校の教育

【校訓】

かざせよ高き理想 たずねよ深き真理
かさねよ厚き工夫 鍛えよ 強き身体

【学校の教育目標】

高い理想を掲げて未来を語り、自己を鍛え続ける雄中生

～学び合い 認め合い 高め合う～

【学校づくりスローガン】

明るい学校 楽しい学校 美しい学校

【重点目標】

- 1 **生徒理解**を基盤とした組織的な指導と支援
 - ・教育相談の日常化
 - ・教職員による情報共有と共通実践
- 2 **温かい人間関係づくりと「心の教育」**
 - ・全教育活動を通じた道徳教育
 - ・成長を促し人権感覚を磨く「振り返りの場」
- 3 生徒の手による活動（「**生徒自治**」）の推進
 - ・中学生目線で創り上げる雄山中学校ならではの活動
 - ・「貢献」の喜びが体感できる機会の保障
- 4 **学力の向上**
 - ・生徒が主役となる「主体的・対話的」な学び合いの授業
 - ・学びの基礎となる読解力を高める活動（「新聞コラム」学習）